KWCST｜結果を並べる

慶應版ウィスコンシンカード分類検査 Clinical record / 01

氏名・ID：_____ 評価者：_____

評価日：____年____月____日 使用資料・版：_____

1 実施条件

見え方・識別	視力・視野／色・形・数の識別：
理解・反応方法	聴力・教示理解／カード操作：
心身の条件	覚醒・疲労・睡眠・服薬等：
受検経験	過去の実施日・使用版・練習経験：
環境・中断	場所・同席者・中断理由：

2 第1・第2段階を分けて転記

正規用紙または公式支援システムで採点した結果を記入します。未実施は「未実施」とし、0に置き換えません。

指標・条件	第1段階	第2段階
CA｜達成カテゴリー数	____	____
PEN｜Nelson型保続性の誤り	____	____
DMS｜セットの維持困難	____	____
IVR｜言語による行為の制御障害	____	____
開始・終了／実測時間	____	____
実施範囲・中断	____	____

3 数値を読むための確認

比較した年齢群・標準値の出典：_____

段階間で変わった反応：_____

未確認・解釈を保留した点：_____

CAは正答カード枚数ではなく、達成したカテゴリー数です。PEN・DMS・IVRの具体的な算出は慶應版の規定を参照します。DMSが少ない場合も、分類を維持する機会が十分あったかを確認します。

KWCST｜反応の流れを残す

正誤の後、何が変わったか Clinical record / 02

4 正式記録に添える観察メモ

全試行の記録は正規用紙へ。ここには解釈に必要な場面を抜き出します。

段階・試行	観察した選択・発言	正誤後の反応・次の選択

5 観察を整理する

分類の発見	最初にどのように手がかりを探したか：
方針の維持	正反応が続いた後、どこで崩れたか：
方針の切り替え	誤り後の反復・変更・迷い：
言葉と動作	説明した方針と実際の選択：
追加情報への反応	第2段階で変わったこと・変わらないこと：

6 実施条件の振り返り

規定外の声かけ・誘導があった場合の内容：_____

疲労・注意・理解など別の説明：_____

追加で確認する評価・活動：_____

同じ分類を繰り返したという観察と、採点規則によるPENの判定は分けて残します。

KWCST｜生活で確かめる

検査から支援の仮説へ Clinical record / 03

7 支援を試す計画

生活で確認する場面	
予測と、確かめる事実	
試す支援・目印	
確認する時期・担当者	

8 支援前後を比較する

記録する内容	支援前	支援後
活動・条件		
誤り／旧方法への反復		
修正・再開までの時間		
口頭の促し・援助		
翌日・別場面での再現		

9 カルテ・申し送り

架空例：慶應版KWCSTで誤り後も同じ分類を続ける場面あり。生活では収納変更後に旧位置を反復探索。新位置の表示後は取り出せた。次回は口頭の促しを減らし、表示を自分で確認できるか、旧位置への反復回数と修正時間を記録する。

今回の事実・次の確認	

正規資料：三京房 KWCST ／ 公式解析支援サービス

参考：加戸ほか．脳と発達．2004;36:475–480. ／ Chiu et al. Disabil Rehabil. 2018;40:1967–1971.

STROKE LAB編集の転記・臨床記録用紙です。教示・試行記録・採点は慶應版の正規資料をご確認ください。